

2019.02.26

グローバルな視点から見た地方創生への課題提起

理事 篠原康明

(1) 自己紹介

三菱銀行(現三菱 UFJ 銀行)出身。国土交通省の外郭団体(都市計画局所管)である(財)都市みらい推進機構の企画調整部長として転出。定年退職後は、当団体(日本専門家活動協会)理事の外、NPO ふるさとテレビ理事などの公益活動に注力中。

(2) 我が国が抱えている不安材料 (国際比較)

- ① 大学の地盤沈下
- ② 将来を嘱望されている優良企業の減少
- ③ 半導体売上でも競争力を失ってきている日本企業

(3) 本日の課題提起 … 三つの視点

～首都圏が地方と連携して牽引すべき役割～

- ① クリエイティブな人材集積によるビジネス創造環境の整備
- ② 日本の魅力を効果的に発信する為のショールーム的拠点構築
- ③ リタイアする企業戦士有効活用のプラットホーム構築

(4) 中国の海亀政策 (海外で学んだ優秀な人材の活用戦略)

(5) 実践プロジェクト (財)都市みらい推進機構在籍中に推進)

- ① 秋葉原駅前再開発 … 構想理念
- ② 品川新拠点開発 … 構想理念

(6) 期待像 … 他国に負けぬ知の創造社会

こうした視点でのまちづくりにご関心のある方は下記までご連絡ください。意見交換をさせて頂き、日本専門家協会(Japa)とのクリエイティブな関係を結んでいただければ幸いです。

日本専門家協会 理事 篠原 康明

mirai.shinohara@ezweb.ne.jp



グローバルな視点から見た 地方創生への課題提起

平成31年2月26日(火)

日本専門家活動協会 理事
篠原 康明

《 略 歴 》

- 三菱銀行(現三菱UFJ 銀行)出身
- 国土交通省の外郭団体(都市計画局所管)である(財)都市みらい推進機構の企画調整部長として転出
- 定年退職後は、日本専門家活動協会理事の外、NPO法人ふるさとテレビ理事などの公益活動に注力中

本日の課題提起(視点)

《総括》・・東京都市圏を「長男」として認識した、地方との都市との連携体制の必要性を提案

第1の視点・・国力の源泉はクリエイティブな人材の集積。

海外の有能な人材が我が国に関心を持ち集まってくるような日本にしないと、ジャパンパッシングに陥り、日本全体が地盤沈下してしかねない、ここは首都機能に負うところ大と思料。

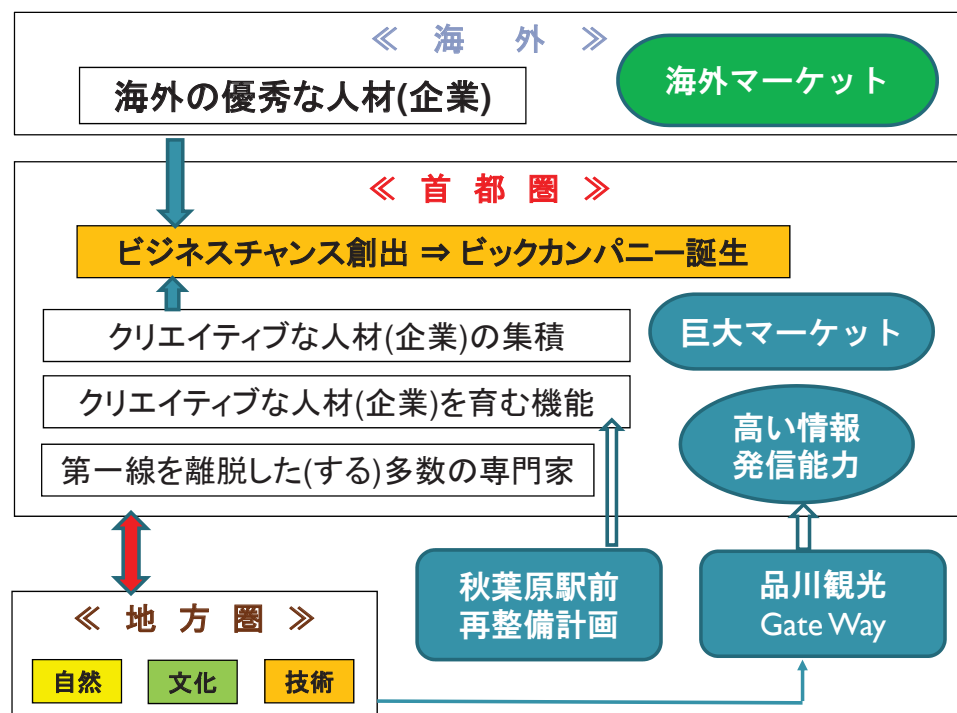
第2の視点・・我が国のショールーム的都市拠点の形成。

我が国の魅力(自然・文化・技術)をワンストップで体感できるようなショールーム的拠点があれば、地方の魅力を効果的に発信することが可能となり、当該拠点の賑わいが地方活性化に直結する。

第3の視点・・一億総活躍の一翼をなすシルバー層の活用

世代交代(団塊世代のリタイア)により、多くの有能な人材が、能力をフルに発揮できる活躍の場を失う。その一方で地方ではこうした人材を必要としている。副業容認企業も増加傾向にある。こうしたJapaではこうした専門能力の活用をの目指す。

期待像

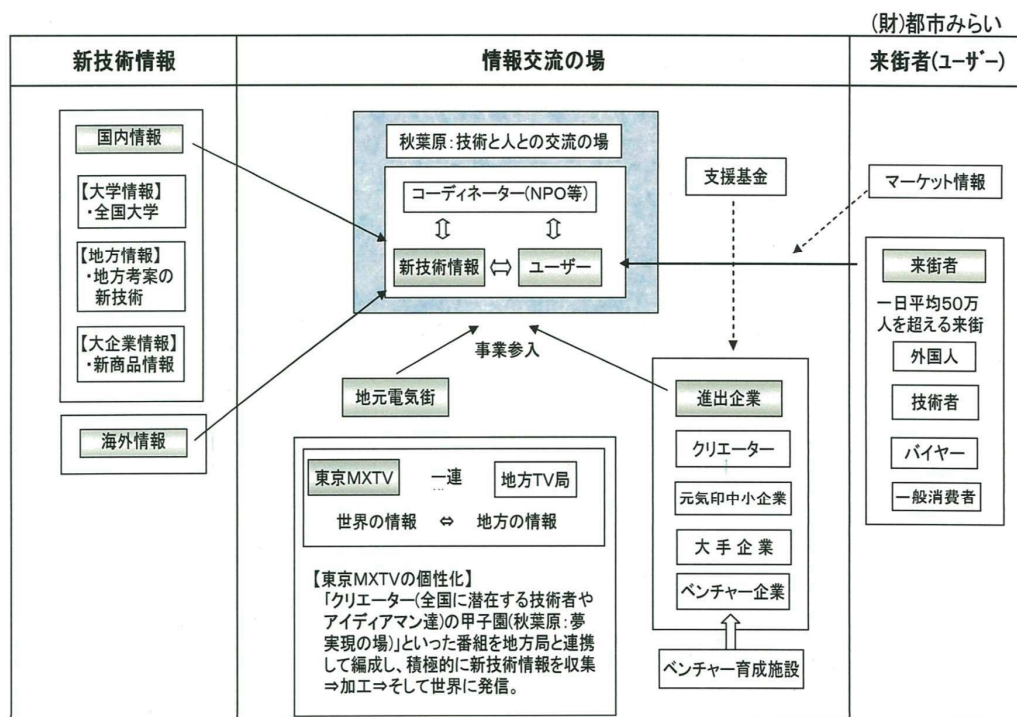


秋葉原再生に向けた開発理念

- 消費の街からクリエイティブな街へ。
新しい産業を育てるインキュベーター
都市への変革
- 産学官連携により我国のIT戦略を牽引するハブ
拠点都市の形成
筑波学園都市や国内外のIT拠点都市とのネットワークを視野に入れた**頭脳集積都市の形成**
- 検討したネーミング
 - ・ ビジネスクリエイティブタウン
 - ・ 秋葉原シリコンバレー ・ 野心家の集う街
 - ・ ビジネス創造市場 ・ 儲かる秋葉原 他

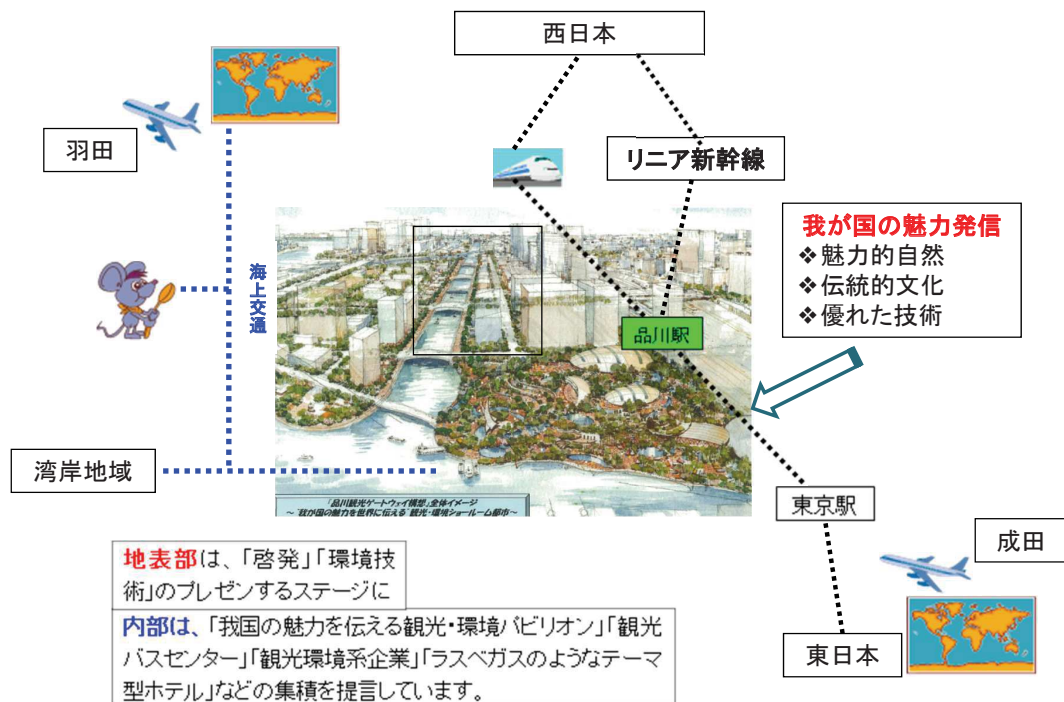
5

新生秋葉原の期待像（機能連携）



6

■ 我が国の魅力を伝える「ショールーム都市品川」のイメージ



7

退役企業戦士の有効活用

- ・ビジネス社会を支えてきた団塊の世代が、今後大挙して第一線から外れて行く。加えて副業を認める企業も増えてきており、現役世代の働き方も多様化してきている。
- ・こうした人材は首都圏に集中しており、彼らの知見や人脈は地方の企業にとって大変魅力的な存在であり、政府の一億総活躍社会実現施策の大きな原動力になると期待している。後継者、海外展開、販路拡大、経営支援等、支援対象は多い。
- ・首都圏に本社を置く大手の商社・金融機関・ゼネコン・メーカー等で活躍している企業戦士は多様な知見と人脈を有している。
- ・こうした知見や人脈(例えば海外勤務経験)は、地方の中小企業にとっては魅力的な存在であるはず。課題は、マッチングプラットフォームづくりにある。

8